
尿が出ねえ！？

ゆうかた

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

尿が出ねえ！？

【Nコード】

N7481K

【作者名】

ゆづかた

【あらすじ】

健康診断の尿検査で、尿が出ないという実体験のお話。少々、お下品（笑）

春爛漫。

各地では桜が咲き、花粉が舞い、学生は進学・進級し、新たな春の訪れを知らせている。

数年前に花粉症になってから、春という季節が来る度に鬱な気分になる専門学校生の俺・ハンドルネーム：水馬は、今年も花粉症に罹っていた。

今日は、新二年生のオリエンテーションが学校で行なわれるため、いつもの時間通りに学校へ向かう。

既に花粉症に罹っているのに、なぜか『花粉飛んでいるマスクいるよな』という理由でマスクを装着していった辺りを考えると、相当花粉症によって頭がやられているのが分かる。

学校へ着くと、教室には数人の生徒しかおらず、俺は自分の席に座り、オリエンテーション開始の9時を待ったため、携帯で“小説家になろう”のサイトを見ようと思ったたら――。

「おはよ〜」

先生が入ってきた。

担任が変わったのが分かった。

別に嫌いな先生ではなかったが、一年生の時にあまり絡みがなかったため、今日から一年間うまくやっていけるか心配だ。

「おはようございます」

俺や、既に教室にいた生徒たちは挨拶をした。

先生は、プリントが入ったカゴや、配布物をテーブルに置くと、

「今いる人、もう健康診断行つてきていいよ」

そう、今日のオリエンテーションには“教科書購入”や“プリント配布”の他に、“健康診断”が含まれていた。

ここで、“朝、トイレ行って来たけど尿検査大丈夫だろうな”という甘い考えをしていたことが、後で大変なことになるうとは、このときの俺は思ってもいなかった。

「それじゃ、行くか」

「行きますか！」

教室内にいたクラスメイトと会話を交わし、健康診断の行なわれる公共の健康センターへ向かった。

その道中、他愛のない話をしながら、のんびりと歩いて行つたが、このときはもう、俺はマスクを着けてはいなかった。

…… なんのために、マスク持つて来たんだろう。

健康センターに到着し、早速、検査を開始することになった。

「では、こちらのコップに尿を入れていただきます。こちらの線まででよろしいので」

そう言つて、看護師さんはコップをみんなに渡し、俺もそれを受け取り、トイレへ向かう。

「俺、朝、三回くらいトイレ行つたから、出ないかも……」

「あ、俺も朝、行つて来たから、ヤバイ……」

三回もトイレへ行つたというクラスメイトと、そんな会話をし、トイレの個室へ入る俺。

「……」

さてと……。

……。

……。

……。

「あれ……で、出るよな？」

……。

チラッ（下を見るが出る気配なし）

……。

（なんとなく、天井を見る）

……。

（コップを近づけてみる）

「……！？」

え、出ない？

ってか、尿意が全然ない！

尿が出ねえ！？

これ、やばいだろ！

「……っ」

力んでも、何も出やしない！

精々、屁が出るくらいだ。

って、どうするよ、俺？

このまま、ここにいても、きっと変わりはない。

こんなことなら、何か水分を摂取してくればよかった……。
とりあえず、他にも検査があるから、尿検査は後だ！

検査の順番を後回しにされると、学校戻ってからの“教科書販売”とか“プリント配布”の時間に支障が出るかもしれないからな。

ガチャ。

俺は、コップをパーカーのポケットに入れ、トイレを出た。

次の検査である“血圧測定”の場所へ行くと、既に、自分より後に来たクラスメイトが座っていた。

「……………はぁ（やっぱり、後回しされてそう…）」

案の定、自分の順番は多少後回しにされていたが、看護師さんが気を使ってくれたのか、待っている人がいるのに、自分が先に検査を受けるというVIP対応を受けた。

まあ、ただ単に、俺がトイレで必死に尿を絞りだそうとしていただけで、実際はVIPじゃないんだが。

「さて……………」

俺は、最後の検査も終え、残すは“尿検査”のみとなった。

朝、トイレに行ったときは、こんな簡単な検査がラスボスになるなんて知る由もなかっただろう。

あの時の俺、ざまぁ！

ていうか、今も、ざまあ過ぎるけどな……。

「……………出てくれよ」

再び、トイレに舞い戻り、洋式ベンキの前に立つ。

……………。

……………。

……………。

「……………」

おい。

なんで、出ないんだよ。

どうした、俺の膀胱^{ぼうこう}。

お前は、その程度のやつだったのか？

もっと、お前が凄^{すご}いってところ、見せてやれよ！

「……………」

所詮、膀胱になに言ったって、出ないものは出ないんだ……。これが世の定め。
運命は、なんと残酷なんだろうか。

「……………」

ここで、俺は閃いた。

よく、便をすると反射的に尿も一緒に出る傾向がある。

“反射”かどうかは、医学に精通していない俺には分からない。
ただ、この便と尿のセットならきつと……………！

「……………」

俺は、便座に腰掛け、お腹に力を入れる。

「……………」

さあ、ベンとニョウ！
来いッー！！
お前らのタッグパワーを、俺に見せてくれ！

「……………」

なに！？

ベンしか出ない……？

どういうことだ、ニョオオオオオオオ！！

お前、なぜ出てこない！

検査中、あれだけ頻繁に唾液を呑み込んでいたというのに！

結局、唾液は唾液でしかないのか！？

「……………」

全てを諦めようとした俺がいた。

だが、その時、まだ秘策が残っているということを思い出した。

その秘策とは“ウオシュレット”を使うこと。

ウオシュレットを使うと、これまた“反射的”にニョウが出るかもしれない作戦を使えば……

「お願いだ、出してくれ……！」

俺は、しばらく、ウオシュレットを肛門に当て、スイッチを切り。ゆっくりと立ち上がって、コップを近づけ……。

「っー！」

力んでみると――。

ポ…タツ…。

「!？」

なん…だと…？

一滴…。

終わった…。

どうやら、俺のトイレ籠り生活が今、始ま――。

「なにっ!？」

ニヨウ様、キタああああ!!

諦めかけた瞬間、ニヨウは排出された。

ニヨウの出した量は、看護師の人が『この線までいい』と言った
辺りまでだったが、その時の俺には、とりあえず、出たことに対し
て、本気で感動を覚えていた。

「よし……」

小さく、そんな声を漏らし、堂々と個室を出る。

そして、コップを窓口に置き、健康センターを後にした。

「……」

なんだろう、この達成感。

とてつもなく、難しいミッション……いや、強敵を倒した気がする。

まさか、ここまでニョウに悪戦苦闘を強いられるとは……。

今後は、今日のことを活かし、きちんと水分は持っていくようにしよう。

それにしても、診察のときの女医さん、可愛かったなあ。

（後書き）

どうでしたでしょうか。

この出来事は今日、実際に起きたことで、その時は本気で焦りましたね。

きっと、尿検査で尿が出ない方はいるかもしれませんが、

そういう方たちといろいろ共感出来ればなあ、と思って書きました
（なにを共感するんだろうww

というわけで、少々お下品な部分もありましたが、読んでくださり、
ありがとうございます！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7481k/>

尿が出ねえ！？

2010年10月21日23時34分発行